



それぞれの体験を学びとして

校長 桃井 陽子

今年の夏も猛暑、酷暑の連続で日本各地で最高気温の更新が相次ぎました。その度に、地球の悲鳴が聞こえてくるような気がしてなりませんでした。

処暑。からからに乾いた校庭をも焼き尽くすような日差しの強さ、そしてかまびすしく響く蟬の声。その中であっても、このところの朝夕の吹く風や虫の音に、残暑の厳しさもありながら、秋が確実に近づいていることを感じます。

子どもたちが学校に戻ってきました。学校はやはり子どもたちがいなければ学校ではありません。休み明け、子どもたちの明るい声や笑顔、エネルギーに満ちあふれたはつらつとした動きに満ちあふれると、「学校の主人公は子どもたち」と強く感じさせられます。



子どもたちが学校に戻ってきました。

子どもたちは、それぞれ夏休みならではの時間の使い方ができたのではないかと思います。7月19日(日)は「まち」のお祭り、「南部祭り」でした。私自身が原小学校に着任して初めての「南部祭り」だったので、その盛大さにびっくりしました。まずは、開催を知らせる花火の威勢のいいドーンという心臓まで響く音。360度に渡って広がる各自治会、団体による模擬店。神輿のパレード。やぐらを囲んでたくさんの人の輪ができ、大人も子どももお祭りを楽しむ雰囲気になっていました。子どもたちの満足した笑顔が心に残ります。幼い頃の原体験や原風景は、成長してからの自分を創り、自分が行動する力の基盤になるとともに支えになると言われます。地域からの温かなまなざしを受けて育った子どもは、成長したら自分が地域にそのまなざしを向けることになる。自分のふるさととして、愛着や誇りをもつことにもつながっていくことなのでしょう。貴重な体験です。

7月30日(木)には、二つ橋小・三ツ境小・阿久和小・原小の4校が本校に集まり、区の水泳大会が開かれました。6年 小林郁海さんの、今年目標やこの大会への思いを言葉にした、すばらしい児童代表の言葉で競技が始まりました。プールサイドに響く、4校の仲間の応援の声。自分の名前が呼ばれた時の力強い「はい!」という返事。夏季水泳教室で一生懸命練習に励み、初めて25メートルを泳げるようになり、水泳大会に参加しもてる力を存分に出して泳ぎ切った子どもの姿。リレーで力を合わせ、泳ぎをつなぐ姿。スタート台の緊張感。大会に参加しなかった子もそれぞれに自分の泳力を伸ばし、水泳を通して成長を実感することができました。その中で、50M自由形 田中大暉さん(6年)、50M平泳ぎ 小林郁海さん・木村凧菜さん(6年)の3名が瀬谷区の代表に選ばれ、8月25日(火)に横浜国際プールで開かれた市小学校水泳大会に出場しました。3名とも自己ベストを目指した立派な泳ぎを見せてくれました。

この夏、読書を通して、知識を広げたり登場人物の心情を一緒に感じたりすることができた子。お手伝いをして、家族の一員としてがんばった子。自分で決めたことを毎日続けた子。キッズクラブに通い、仲間とおもいきり遊んだ子。自分の得意をさらに伸ばした子。苦手なことにチャレンジした子。家庭や地域でいろいろなことに取り組み、それぞれにゆったりとした時間の中で、夏休みならではの体験をしたことなのでしょう。

前期後半の学校生活が始まりました。9月は前期のまとめの月です。夏休みならではの体験を心の栄養として、また学ぶ力の基にして学校生活に生かし、さらなる成長につなげていけるよう教職員一同取り組んで参りたいと思います。

引き続き、保護者の皆様や地域の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



最高学年に向けての通過点としての三浦宿泊体験学習

副校長 佐藤 恵子

晴れ間の続いたシルバーウィーク。スポーツの秋、屋外での活動も気持ちよく取り組める季節となりました。

前期もあと、一週間ほどで終わろうとしています。4月のスタートから10月の前期のゴールへ、一年間の中での区切りの時期を迎えています。どの学年も振り返りの活動を計画し、子どもたちが後期へのよりよいスタートをきれいに意図的な指導を重視し、授業を展開しています。子ども一人ひとりが前期の自分と向き合い、自分のよさやできた事やできなかった事を確認し、節目の時間を有意義に過ごしてほしいものです。何となく終わり、何となく過ぎていくことなく、よい意味で張り詰めた緊張した思いで「よし!!」と10月13日を迎えることができるようにご家庭でも話題にしてみてください。

さて、9月13日(日)～14日(月)の二日間、5年生と一緒に三浦宿泊体験学習に参加してきました。5年生とは、昨年4年生で愛川体験学習も活動をともしました。今回は、一年を経て、子どもたちの成長の姿を見つけることが私の楽しみでした。4年生では、初めての宿泊体験学習にとてもうきうきした様子で、楽しく活動を盛り上げていく子どもたちの姿が印象的でした。

5年生の三浦宿泊体験学習は、まだ暑さの残る9月。愛川は、11月の実施で秋の深まる頃でした。活動のめあてを設定する時、場所や季節、成長段階が違えば体験学習の活動内容のバリエーションが広がります。

三浦でしか、できないこと。5年の先生方は、日々子どもたちの学習や生活の様子を見つめ、体験学習を通して、子どもたちの力をどのように育てていけるか活動計画をじっくりと考えました。そして、「みんなで協力し、楽しく学び、思い出に残る三浦体験学習にしよう」のテーマのもと、三浦の自然を感じ、社会の産業の単元から、三浦の魚市場の様子を見つめ、そして友達とのふれあいから心の成長を目指しました。



キャンドルファイヤーの様子

実行委員会では事前の活動を大切に、自信をもって取り組めるように指導をしました。三浦ふれあいの村では、各部屋の友達と声を掛け合ってシーツをたたんだり、野外炊事では、交代で大変な火おこしをしたりして、思いやり協力する姿を発見することができました。そして、キャンドルファイヤーではリズムに乗ってダンスをするなど生き生きと活動し、素直さとエネルギーを感じることができました。



「今回の活動から得た学年の成果と課題を学年末に向けて解決できるよう」

これから、最高学年の6年に向けて、今回の活動から得た学年の成果と課題を学年末に向けて解決できるよう、一日一日を大切に過ごしてほしいです。

中秋の名月からの一番大きな月が見えるスーパームーンへ。

秋の訪れとともに、今月もどうぞよろしくお祈りします。



心ゆたかに育つ原の子

～様々な取組、連携、支えによって子どもが育つ～

校長 桃井 陽子

冬芝の種子が撒かれた一面には10センチメートルほどの青いふさふさとした芝が生えそろう、子どもが仕切られたロープの外からそれを優しくなでています。また職員玄関前の円形花壇を中心にして、花ボランティアのみなさんが植えてくださった、ストックやパンジー、ビオラ、ノースポールなどの色とりどりの花の香りが漂う今日この頃。朝は大忙し、1年生は自分が植えた球根の水やり、2年生も自分が育てているブロッコリーやカリフラワー、芽キャベツの水やりから一日がスタートします。

10月19日は72周年をお祝いする創立記念式でした。今年度は、昭和29年度卒業生の相原 勝さんにお話をお願いしました。72年前に突然、原小学校が生まれたのではなく、今から141年前、阿久和学校（現在の中村バス停近く）、126年前、尋常阿久和小学校（大久保原公園近く）、そしてこの場所に原小学校が生まれたことを史跡をたどって説明していただきました。また106年前の学校手帳に書かれている生徒として守らなければいけないことや算数の問題集について貴重な資料を基にしたお話でした。最後に子どもたちへ楽しく学校生活を送るにあたって、「お父さん、お母さん、兄弟、お友達を愛し、原小学校を愛してください。私は61年前に卒業しましたが今でも原小学校が大好きです。」と話されました。原小学校は、相原さんのような思いがずっとつながり、支えられて今があるのだ、と実感しました。



原中3年8組の皆さん「なりたい自分の姿として」

た。首衆の授業で皆さんのような美しい声が出るようにたくさん練習したいです。」と、お礼の言葉をしっかりと伝えました。6年生は卒業に向けて3年生は音楽会に向けて、具体的なよいイメージをもつことができました。1年生が6年生にあこがれをもつように、中学生になったら、こんなふうにかっこよくなるんだという、なりたい自分の姿としてイメージすることができたのではと思います。小中連携のおかげです。

さて、原小学校では10月26日から11月6日まで読書週間になっています。図書ボランティアさんは、読み聞かせグループ「おはなしポケット」と環境・リペアグループに分かれて活動してくださっています。先日、本を修理されているところを見させていただきました。「よく読む本ほど壊れてしまう。修理することで、また子どもたちにこの本を読んでもらえる。」と、慣れた手つきで本格的な修理をされていました。読書週間では、中休みに本の読み聞かせが計画されています。」27日は、図書委員による手作り紙芝居でした。「むじなの話」と「かまとり池」という原小学区の周りの昔話を、紙芝居担当とナレーターに分かれて、絶妙のタイミングで紙芝居が読まれていました。たくさん子どもが集まり、だんだん紙芝居に近づき、最後はかぶりつくような感じの紙芝居でした。終わった後、図書委員の子どもに感想を聞いてみました。「紙芝居づくりは苦勞もしたけど、みんなが見てくれて楽しかった。やりがいがあった。」「最後拍手をもらってやってよかった。」と。原小学校は子どもたちの読書活動を大切にしています。本のもつ豊かさ、魅力を子どもたちに味わってほしいと思っています。小学校の時にちょっとでも本の面白さに触れてほしい、本好きな子に、自ら本に手を伸ばす子どもになってほしいと思っています。



「様々な取組や連携・支えによって心豊かな原の子が育っています。」

このように、様々な取組や連携、支えによって、心ゆたかな原の子が育っている、そんなことをたくさん実感することができた10月でした。11月4日には、ボランティアというかたちで学校に関わってくださっている方々の活動を知り、感謝の気持ちを伝える「ありがとう 笑顔で伝える感謝の会」を予定しています。

原小だより



横浜市立原小学校

平成27年12月 1日

12月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/>

生まれてきてくれて、ありがとう

校長 桃井 陽子

北風、木枯らし、空っ風。初冬に吹く冷たい風は、木の葉を吹き飛ばしてしまいます。11月28日(土)、原小放課後キッズクラブの「地域交流お掃除隊!」の行事で、キッズの子どもたちが地域の方と一緒に学校の周りの清掃活動をしました。「きれいにするということは、とても気持ちのよいことですね。学校の周りもきれいになりましたが、皆さんの心もきれいになりました。」このような活動に感謝しながら、子どもたちに伝えました。

さて、30日の朝会は人権に関する話、特に今年度は「いのち」に視点をあてるといふことで、次のような話をしました。



今日は、校長先生がお母さんになった時の話をします。これから、私の宝物のテープ(今、カセットテープはほとんど見なくなりましたが…)をかけるので、聞いてくださいね。「ドッドドッドドッドドッドッ・・・」何の音でしょう…。これは、私のおなかに、正に今、生まれようとする赤ちゃんがいて、その赤ちゃんの心臓の音です。
※分娩監視装置を通して規則正しく、また私の陣痛の痛みと相まって、呼応して打つ心臓の音は、その誕生を待たなしの状況の中で、力強く響いていました。
今、心臓の音がゆっくりと、そして小さくなったでしょう。これは、陣痛と違って、赤ちゃんを産む時の痛みがものすごく強くなった時なのです。ほら、わかりますか。
※そのテープから、赤ちゃんの産声が流れます。
聞こえましたか。赤ちゃんの声がしました。今、赤ちゃんが生まれてきてくれました。うれしかった。本当にうれしかった。生まれてきてくれたことに、ただただ、ありがとうと思いました。赤ちゃんが生まれるまで、私は、自分のいのちと赤ちゃんのいのちと二つのいのちをもっている特別な10か月という時を過ごしていましたが、この瞬間、私のいのちと赤ちゃんのいのちが分かれて、赤ちゃんは、自分のいのちを生きることになりました。がんばれって思いました。もう赤ちゃんは、当然、大人になりましたが、その時の気持ちは今も変わりません。いつだって、私のいのちがある限り、その子の応援団長でいたいと思っています。
実は、増子先生(養護教諭)は、今、特別な時を過ごしています。増子先生のおなかには赤ちゃんがいて、二つのいのちをもっている特別な時を過ごしています。増子先生に、今どんな気持ちで赤ちゃんの誕生を待っているか、聞いてみましょう。
「今も、宝物と一緒に生きていて、幸せな気持ちです。早く会いたいな、元気に育ってほしいなっと思っています。…略」と、増子先生は子どもたちに話しました。
皆さん一人ひとりが、このようにして生まれてきました。1年生は、おうちの人に、ぎゅうっと抱きしめていただく宿題がありましたね。その時温かくてうれしかったでしょう。おうちの人もきっとうれしかったと思います。大きくなったね、かわいいねって思ったでしょう。皆さん一人ひとりが「生まれてきてくれて、ありがとう」、そういう大切な大切な一人ひとりです。ですから皆さん自分のいのちを大切にしないではいけません。そして同じように自分の周りにいる仲間のいのちも大切にしないではいけません。

このような話をした後、学校に届いている人権のポスターを一枚紹介しました。

「大切に わたしと あなたの 心の笑顔」

ポスターには、このように書かれています。

子どもたちの日々の学校生活の中で、けんかをしてしまったり、時に仲間を傷つけるような言葉を発したりすることもあるけれど、だれもが大切な「いのち」をもち、大きな可能性を備え、夢や目標を抱きながら未来を生きていくかけがえのない存在であることを、子どもたちには忘れないでほしいと思います。相手を思いやり、心のキャッチボールができていくか、さびしい思いをしている仲間を見つけた時、そっと声をかける何気ない優しさがあるか、温かい空気があるか…。身近な人はもちろん、ありとあらゆる立場の方々の「いのち」、人権を大切にできる意識と行動力を育てることは、学校教育の大きな柱です。



原小学校では、「いのちの学習」を6年間の発達段階を系統的にとらえて実施し、「いのちの学習ファイル」にその学習の記録を保管しています。

保護者の皆様、地域の皆様、平成27年の本校の教育活動に様々な形でご協力、ご支援いただいたことに深く感謝しております。ありがとうございました。

来る平成28年も、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。